

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

【取組内容】 参会者が「課題（問い）をもって参加する課題解決型の研究会①

紫波東学園 研究会

1 Plan 計画【参観前】

- ☐ 研究会の流れを確認する
- ☐ 本校の「5つの授業づくり5つの視点」を確認する
- ☐ 研究会を通して「何を学びたいか」イメージをもつ



2 Do 実践【授業参観】

- ☐ 5つの視点をもって、授業を参観する
- ☐ 疑問に思ったことを児童生徒に質問する（リフレクションの時間）
- ☐ 授業評価を記入する（フォームに入力①）



3 Check 評価【授業研究会】

- ☐ 本時の授業についてグループで感想交流
- ☐ 自身の「課題（問い）」を設定する（フォームに入力②）
- ☐ 課題解決を図る（個人・グループ）
- ☐ 振り返り（課題のまとめや感想）（フォームに入力③）



4 Action 改善【研究会終了後】

- ☐ 参観を通して得られた学びを振り返る
- ☐ 自身の授業改善を図る（授業者、参会者）

参加者の課題解決を本校教員の授業改善につなげる

【参会者の振り返り】

○交流では、いい考えが出ていたが、答えが出ない場面もあり、児童同士での交流の難しさを感じた。

○課題に対し自分のペースで学習する様子が、まさに個別最適な学びであると感じた。個別に加えて協働的な学びで、さらに考えを深め合う姿も見たいと思った。

○複線型の授業を行う上で、教師のファシリテート力、子供たちの表現力、対話力の重要性は高まることから、それぞれが身に付けていかなければならない力がより明確になった。



【本校教員の授業改善の意識】

○タブレットの活用はあくまでもコミュニケーション能力を育成する補助的なツールとして位置づけ、対人でのやりとりも大切にしながら、子供が主体的に学び、深く考えられる授業を追究していきたい。

○学習の振り返りを大切に扱っていきたい。何ができるようになったのか、なぜできるようになったのかを伝え、自分の頑張りが成長に気付かせ、学習に対する意欲付けを図りたい。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第二中学校【指定校】

【取組内容】 参加者が「課題（問い）」をもって参加する課題解決型の研究会②

全体会（研究概要説明）



研究概要の中で「授業づくりの視点」についての説明を中心にを行い、研究会では、授業者と参加者が同じ視点で協議できるようにする。

授業参観



リフレクション

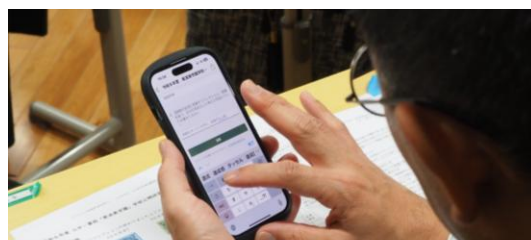


参加者が疑問に思ったことを、生徒に質問する。「子供たちは学びをどのように捉えているのか」子供たちの目線で授業理解を図るために設定。

課題解決を図る協議



参加者が「参加者同士で」、「授業者と」、「個人で」等、様々な解決方法で自身の課題解決を図る。

感想交流
課題（問い）の設定

参加者が、授業参観やリフレクションを通して深めたいと考えた内容を「課題（問い）」として設定。

授業評価

令和6年度紫波東学園
学校公開研究会授業評価
中学校3年 英語

* 必須

1. 名前を記入してください。 * (1)

回答を入力してください

2. 【視点①】子供は、自己調整しながら、主体的に課題解決に取り組むことができていましたか。 * (1)

☐ 満足する

☐ どちらかといえば満足する

☐ どちらかといえば満足しない

☐ 満足しない